

【英文契約の基礎、契約書の作成実務、契約交渉】 英文契約書の体系的理解と契約交渉の実務

【講師】

ベーカー&マッケンジー法律事務所（外国法共同事業） 弁護士 ニューヨーク州弁護士 本間 正人

(敬称略)

【講義概要】

外国企業とのビジネスにおいて適切なリスクアロケーションを行い、安定的な取引関係を構築・継続するためには、そのツールである英文契約書の理解が欠かせません。英文契約は単なる契約書の和訳ではなく、一定のフォーマットとして理解されるべきものです。本セミナーを通じて、英文契約書を体系的に理解し、リスクアロケーションのための道具として使いこなす準備をして頂きたいと考えています。実践編として、実際の英文契約を用いて、契約交渉の実務についてもお話していきます。

【重点講義項目】

1. 英文契約の基礎

- (1) 国内契約との相違とその背景
- (2) 英文契約のスタイル
- (3) 外国法に特有の概念、法制度の違いに基づく留意点
 - ・外国法と日本法
 - ・紛争手続の差異
 - ・契約書面作成に関するルール・実務
 - ・契約違反
 - ・損害賠償・責任
 - ・外国の会社に関する法制度
 - ・調印手続・副本・翻訳

2. 契約英語と契約書の作成実務

- (1) 契約英語の特徴
- (2) 契約書のドラフティングの学習方法

3. 英文契約書の主要条項の基本的理解

- (1) 一般条項の役割
- (2) 頻出する一般条項の意義と契約交渉上の留意点
- (3) 典型条項：

当事者、前文・後文、定義、前提条件 (Condition Precedents)、期間、表明保証 (Representations & Warranties)、誓約 (Covenants)、損害賠償、補償 (Indemnity)、解除・終了、準拠法・管轄・紛争解決、秘密保持、税金、見出し、副本、存続条項、譲渡、完全合意 (Entire Agreement)、分離可能性等

4. 交渉開始の実務

- (1) 秘密保持契約 (NDA)
- (2) Letter of Intent (LOI) / Memorandum Of Understanding (MOU)

5. 紛争解決手続

- (1) 準拠法 — 言語
- (2) 裁判
- (3) 仲裁

6. 実際の契約例を使った契約交渉の具体例・実務

- (1) リスクアロケーション
- (2) 典型契約における交渉ポイント
- (3) 契約の修正のテクニック、汎用性のある契約英語表現

講演スタイル

プロジェクターを使用します

*当セミナーの録音、転送、撮影等はお断りしております。また、法律事務所ご所属の方は、お申込みご遠慮願います。

講師略歴

2004年 弁護士登録 ベーカー&マッケンジー法律事務所入所

コロンビア大学ロースクール卒業後、2011年にニューヨーク州弁護士登録

ベーカー&マッケンジー法律事務所の日本及びロンドン事務所、邦銀ニューヨーク支店及びロンドン支社において、PPP-PFI、クロスボーダーのファイナンス案件、M&A取引、インフラ投資案件等を中心に、国内外のクライアントを代理し、英文契約実務に関し豊富な経験を有する。

ベーカー&マッケンジーはアジア各国に多数の現地専門家を擁する現地事務所を有している。

